

第5学年 音楽科学習指導案

期 間 平成15年8月27日～9月11日
対 象 花巻市立太田小学校
5年 男子18名 女子19名 計37名
指導者 高橋 郁子（長期研修生）

- 1 題材名 日本音楽の特ちょうを感じて
- 2 題材について

(1) 題材について

本題材では、「日本の伝統的な音楽の旋律や響きの味わい」「スタッカートやレガート、速度をはじめとする旋律がもっているいろいろな表情」などを中心に、曲想を味わったり表情豊かな表現を工夫したりする活動を進める。

子もり歌や我が国の民謡では、日本の音楽の旋法や音階に触れ、旋律の動きや曲全体の気分を味わったり、気持ちを込めて歌ったりする活動を盛り込む。また、日本の楽器として身近にある和太鼓の力強い響きやリズムを鑑賞し、かけ声や構え方を工夫させながら、おはやしをつくって楽しむ活動へと発展させたい。本校で伝統芸能として取り組んでいる「田植え踊り」を参考にしながら、これまでに感じ取った旋律や音色の特徴を生かして、旋律やリズム表現を工夫したり、身体表現をして日本の音楽を体感させたい。このような活動をとおして、体全体で表現する楽しさや歌声・楽器の魅力を感じ、日本の音楽に関心をもつようにしたいと考える。

(2) 児童について

5年生では、和音の響きを感じ取ったり、短調の特徴を生かして旋律をつくったりしながら、つくって表現（創作活動）を行っている。しかし、どのようにつくったらよいかイメージを抱けないまま、友達と楽器をたたき合ったり、言われるままに演奏をするなど、創造的に音楽にかかわっているとは言えない状況である。

(3) 指導に当たって

指導に当たり、児童のイメージの中にある「日本のふし」を探ることから始め、地域で伝承されている「田植え踊り」の独特な味わいに触れたい。また、子もり歌で取り上げられているような陽音階・陰音階の鑑賞と視唱、日本の民謡の鑑賞活動をとおして、「日本のふし」に親しませたい。

中心的活動として扱っていきたいのは、日本の独特なふしまわしの一つであるおはやしをつくる活動である。そこでは、児童の願いや思いを生かし、イメージ通りに創作ができるように、表現形態を自由に選択する創造的な学習活動を取り入れる。旋律楽器では、陽音階である「レ・ミ・ソ・ラ・ド」の五つの音を用いて創作を行ったり、4拍子のリズムを感じながら身体表現やリズムを工夫したりするなど、明確なねらいをもって活動を進めたい。また、それぞれが選択した表現形態ごとにグループで表現を工夫し、その表現を発表し合い、学び合う場を設定する。これにより、自らの音楽表現や友達の音楽表現のよさや課題に気づき、音楽の中からよさを味わい、よりよい表現を工夫したりしながら、自己表現の幅を広げて創造性を高めることができると考える。

3 教材名

「子もり歌」 (日本古謡)

「江差追分 (北海道)」「八木ぶし (群馬・栃木)」「谷茶前 (沖縄)」「南部牛追い歌 (岩手)」

「祭りばやし」 (川崎祥悦作曲)

4 題材の目標

- 旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、日本の伝統音楽に親しむ。
- 音色の特徴を生かしたり、全体の響きを感じ取って表現を工夫したりすることができる。

5 題材の指導計画 (全9時間)

- (1) 第一次 情景を思い浮かべながら、二つの「子もり歌」を聴いたり歌ったりして、曲想の違いを感じ取る。(1時間)
- (2) 第二次 学校で取り組んでいる「田植え踊り」のビデオを見たり、日本の民謡を聴いたりして、伝統音楽の特徴を感じ取り、日本の民謡に親しむ。(1時間)
- (3) 第三次 日本の旋律や伝統音楽について知り、表現形態を選択して表現の仕方を工夫したり聴き合ったりして、表現を高め合う。(7時間)

指導計画 (日本の音楽の特ちょうを感じて)

次時	活動のねらい	学習内容と学習活動	教材	指導上の手だて
第一次	1 ・情景を思い浮かべながら、二つの「子もり歌」を聴いたり歌ったりして、曲想の違いを感じ取る	・二つの「子もり歌」の曲想の違いに気づき、2曲を歌い比べて曲想の違いを感じ取る	子もり歌	・陽音階の「子もり歌」と陰音階の「子もり歌」の違いを感じ取り、曲想の違いによって歌い方を工夫できるようにする
第二次	2 ・「田植え踊り」のビデオを見て、伝統芸能として地域で取り組んでいる音楽の特徴を考える ・日本の民謡を聴き伝統音楽の特徴を感じ取る	・日頃、踊り慣れている「田植え踊り」の音楽的要素を調べ、伝承的な音楽に親しむ ・「江差追分」「八木ぶし」「谷茶前」「南部牛追い歌」の共通点、相違点について考える	田植え踊り 民謡 江差追分 八木ぶし 谷茶前 南部牛追い歌	・昔から太田地域で人々に親しまれてきた「田植え踊り」の音色やリズム・人の声による表現、演奏の仕方に着目させる ・歌声、リズム、速度など民謡を特徴付けている要素を感じ取りながら聴かせる
第三次	3 4 ・「花巻ばやし」の範奏を聴き、お祭りの様子を想起し、「祭りばやし」の演奏を楽しむ	・「祭りばやし」の旋律とリズムをリコーダーや和太鼓で演奏する	祭りばやし	・「レ・ミ・ソ・ラ・ド」の音からできていることと、「子もり歌」の陽音階であることから、明るく楽しい感じになっていることに気付かせる

三 次	5	・自分のイメージに合った表現形態を選択し、グループで練習する	・グループごとに自分のイメージに合う音やリズムを工夫したり、身体表現を考えたりする	・実態調査を基に練習の方法を考慮する
	6	・他のグループからのアドバイスを参考にしながら見直す	・日本の音楽をより効果的に声や楽器、身体で表現する方法をグループで話し合う	・出来上がったものをより効果的に表現する方法を考える
	7	・グループごとの発表を聴き合う	・グループごとに発表し、よさやお祭りらしさの工夫を学び合う	・グループごとに発表したり、聴き合ったりして、相互評価をさせる
	8	・それぞれの作品をもう一度練り直し、ビデオに撮り直す	・友達同士、互いに認め合い、学び合いながら表現を工夫する	・よりよい表現を求め、音楽的な諸要素にも配慮して、自らの思いや考えを深める
	9	・「2003太田祭りばやし」を味わい、本題材のまとめをする	・表現を工夫したり、自分で音や音楽をつくることの楽しさを味わう	・表現する楽しさや成就感、創造力の高まりも実感させるような指導を心掛ける

題材名 「日本の音楽の特ちょうを感じて」

指導時間 9時間

<第1時> 「日本のふしの感じを味わおう」

本時の目標

- ・二つの「子もり歌」の曲想の違いに関心をもち、意欲的に聴こうとしている。

(音楽への関心・意欲・態度)

- ・二つの「子もり歌」の曲想の違いに気付き、旋律の違いを感じ取る。

(音楽的な感受や表現の工夫)

段階	学 習 活 動	○指導上の留意点◎研究にかかわる手だて◇評価	教具・資料
導 入	1 既習曲を合唱する。		
	2 本時の学習課題を確認する。		
展 開	二つの「子もり歌」のメロディーの違いを感じ取ろう。		
	3 歌詞を読み、内容を想像したり、話し合ったりする。	○歌詞の内容を基にして、情景を考えたり、何のために歌われるのかを考えたりすることにより、歌い方の工夫につなげる。	・子もり歌の歌詞
	4 二つの子もり歌を聴き、感想をもつ。	○二つの子もり歌の範唱を聴き、曲全体の雰囲気の違いを感じ取らせる。 ◇学習シートの記述により評価 A：明るい感じと暗い感じの違いを具体的に記述 B：違う雰囲気であることを記述	・二つの子もり歌のCD ・学習シート
開 終	5 二つの子もり歌の旋律の違いに気付く。	○歌いながら曲の感じの違いを感じとらせたり、楽譜や使われている音を調べたりさせながら、わかったことを学習シートにまとめる。 ◎フラットがついていることや使われている音(レミソラド・レ♭ミソ♭ラド)の違いにより、曲想が違うことに気付かせ、学習シートにまとめ、次の活動につなげる。 ◇学習シートの記述により評価 A：出だしの音や使われている音階を具体的に記述 B：出だしの音の違いや音階の違いにふれた記述	・五線紙に陰音階、陽音階を記入した拡大図
	6 二つの子もり歌の曲想を生かした歌い方について話し合う。		
末	7 2曲を歌い比べて曲想の違いを感じ取る。	○曲想の違いによって歌い方を工夫できるようにする。	
	8 本時の活動を振り返り、学習シートに記入する。	○各自の自己評価を全体に広めたり、学んだことを紹介したりする。	
	9 次時の学習内容について把握する。		

<第2時> 「日本の民謡をきいてみよう」

本時の目標

- ・地域に伝わる伝統芸能や日本の音楽に関心を持ち、聴こうとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・昔からそれぞれの地域で親しまれてきた民謡を聴き、それぞれの音楽の特徴を感じ取っている。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・いろいろな民謡の特徴を感じ取って聴くことができる。
(鑑賞の能力)

段階	学 習 活 動	○指導上の留意点◎研究にかかわる手だて◇評価	教具・資料
導 入	1 「田植え踊り」のビデオを見る。	◎楽器の音色、旋律やリズムなどの要素と曲想、踊りを関連付けながら見る。	・「田植え踊り」のビデオ ・「谷茶前」のCD
	2 沖縄民謡「谷茶前」を聴き、感想をシートに書く。	○「田植え踊り」とは違った曲想の「谷茶前」を聴かせ、民謡にも興味をもたせる。	
展 開	3 本時の学習課題を確認する。		
	いろいろな民謡を聴き、それぞれの特徴の違いを感じ取ろう。		
	4 「江差追分」「八木ぶし」の特徴を感じ取る。	○二つの民謡を聴き、曲全体の雰囲気を感じ取る。 ○二つの民謡のリズムや強弱、速度などについて違いをシートに書き、確認し合う。 ◇学習シートの記述により評価 A：構造的側面の要素について具体的に違いを記述 B：違う雰囲気であることを記述	・二つの民謡のCD ・学習シート
終	5 郷土岩手の民謡を聴き、特徴を感じ取る。	○「南部牛追い歌」を聴き、追分け調と節調のどちらに似ている感じかを考えさせる。 ◎郷土岩手の民謡に興味をもたせるとともに、本時の学習で気付いたことや感想を書かせ、学習シートにまとめて発表し合い、次の活動につなげる。 ◇学習シートの記述により評価 A：旋律やリズムなどの構造的側面・風土や文化などについて記述 B：旋律やリズムの特徴に気を付けてはいるが、漠然とした記述	・「南部牛追い歌」のCD
末	6 本時の活動を振り返り、学習シートに記入する。	◎各自の自己評価を全体に広めたり、学んだことを紹介したりする。	
	7 次時の学習内容について把握する。		

<第3・4時> 「おはやしをつくろう」

本時の目標

- ・「祭りばやし」の演奏に意欲的に取り組み、自分の選択した表現形態で日本の音楽を楽しく表現しようとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・日本の音楽の旋律やリズムを感じ取って、それらを生かして表現の工夫をする。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・祭りばやしの曲想を生かして、声や楽器で演奏したり、身体表現をしたりする。
(表現の技能)

段階	学 習 活 動	○指導上の留意点◎研究にかかわる手だて◇評価	教具・資料
導 入	1 陽音階の「子もり歌」を歌う。		
	2 本時の学習課題を確認する。		
	自分なりの方法で、日本の音楽を表現しよう。		
展	3 「祭りばやし」の範奏を聴き、太鼓や笛の楽しい雰囲気を感じ取る。	○踊ったり、太鼓をたたくまねをしたりしながら、楽しく聴く。	・祭りばやしの拡大楽譜
	4 「祭りばやし」の旋律を演奏する。	◎階名唱をして、主旋律が日本の音階からできていることや、陽音階の「子もり歌」の音階と同じであることに気付かせる。	・学習シート ・リズムカード
	5 「祭りばやし」の和太鼓のリズムを演奏する。	◎「ドン」「コン」「カカ」とリズムを唱えながら演奏する。	
	6 「祭ばやし」の旋律に歌詞を入れて歌う。	◎労作歌・祭り歌・祝い歌・踊り歌などにもふれる。	・民謡の歌詞カード
	7 「祭ばやし」の旋律に踊りをつけて表現する。	◎4拍子の音楽を体感させる。	・振り付けカード
	8 表現形態を選択する。	◎自分のイメージに合う表現形態を選択する。 ◇学習シートの記述により評価 A：自分の選択する表現形態を具体的に記述 B：自分の選択する表現形態を漠然と記述	
開	9 グループを決め、グループごとに活動する。	◎グループごとに自分のイメージに合う音やリズムを工夫したり、身体表現を考えたりする。 ◇児童の活動の様子を観察により評価	・それぞれが選択した旋律楽器や打楽器など
	10 本時の活動を振り返り、学習シートに記入する。	○自分の選択した表現の方法や取り組みについて振り返る。	
末	11 次時の学習内容について把握する。	◎次時は、グループ内で互いに聴き合ったりして、友達の作品を味わうことを確認する。	

<第5・6時> 「おはやしをつくろう」

本時の目標

- ・興味ある表現形態を選択して、その形態を生かした表現を工夫しようとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・日本の音楽の旋律やリズムを感じ取って、イメージを広げながら曲作りを工夫している。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・祭りばやしの曲想を生かして、リズムや旋律・動きを工夫してつくっている。
(表現の技能)

段階	学 習 活 動	○指導上の留意点◎研究にかかわる手だて◇評価	教具・資料
導 入	1 一つのグループのおはやしを紹介する。		
	2 本時の学習課題を確認する。		
展 開	選んだ表現形態を生かして、おはやしを完成させよう。		
	3 選んだ表現形態を生かして表現を工夫する。	○前時に引き続きグループごとに活動を行い、8小節分のおはやしや踊りを完成させる。 ・リコーダーと和太鼓とチャップパグループ ・リコーダーと和太鼓と踊りと手びらねグループ ・リコーダー（またはピアノ）と和太鼓グループ ・リコーダーと和太鼓と歌と踊りグループ ・リコーダーと和太鼓と手びらがねグループ	・それぞれが選択した旋律楽器や打楽器・踊りなど ・学習シート
	4 自分のパートを練習する。	・リコーダーと和太鼓とチャップパと手びらがねグループ ◇学習シートの記述により評価	
5 グループで合わせて表現を工夫する。	◎自分の受け持つパートが楽曲全体の中でどのような役割があるか意識させ、次の活動につなげる。		
終 末	6 形態の似ているグループ内で発表会をする。	◇児童の活動の様子を観察により評価 ○表現がスムーズに完成したグループには、バランスやリズム、旋律、強弱、速さ、かけ声などを工夫させる。	
	7 本時の活動を振り返り、学習シートに記入する。	◎実態調査を基に、発表することに対する苦手意識を少なくするために設定。	
	8 次時の学習内容について把握する。	◎グループの発表のよさを見つけながら聴き合う。 ◎各自の自己評価を全体に広めたり、学んだことを紹介したりする。	

<第7・8時> 「おはやしをつくろう」

本時の目標

- ・友だちの演奏をよく聴きそのよさを味わい、自分の表現にも取り入れようとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・互いに工夫した曲のよさを感じ取り、よりよい表現を工夫する。(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・楽器の音色や音量のバランス、全体の流れなどに注意して演奏している。(表現の技能)

段階	学 習 活 動	○指導上の留意点◎研究にかかわる手だて◇評価	教具・資料
導 入 展	1 前時を想起する。		
	2 本時の学習課題を確認する。		
	太田祭りばやしの発表会をしよう。		
	3 グループごとにお囃子の練習をする。	○前時に工夫したバランスやリズム、旋律、強弱、速さ、かけ声などを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの楽器など ・学習シート ・実物投影機
	4 発表会をする。(学習シートを基に意図を説明)	○実態調査を基に、感想発表がしやすいように学習シートに感想やグループの演奏のよさなどを書き入れる。 ◇学習シートの記述により評価 A：祭りばやしの工夫やよさを構造的側面から具体的に記述 B：祭りばやしの工夫やよさを感性的側面からのみ記入	
5 学習シートと合わせながら、お祭りらしさの工夫を学び合う。	◎バランスやリズム、旋律、強弱、速さ、かけ声など構造的側面を取り上げながら、それぞれのグループの工夫を学び、次の学習に生かす。		
開 終 末	6 学んだことを基に、それぞれの作品をもう一度練り直す。	◇学習シートの記述により評価	
	7 グループごとに練習をする。	○練り直した部分を中心に練習する。	
	8 「2003太田祭りばやし」として、ビデオに録画する。	◇学習シートの記述により評価	
	9 本時の活動を振り返り、学習シートに記入する。	◎各自の自己評価を全体に広めたり、学んだことを紹介したりする。	
10 次時の学習内容について把握する。			

<第9時> 「おはやしをつくろう」

本時の目標

- ・友だちの演奏をよく聴きそのよさを味わい、自分の表現にも取り入れようとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・互いに工夫してつくったお囃子を聴き合い、そのよさを感じ取っている。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・互いの楽器の響きや動きを感じながら、演奏したり身体表現をしたりする。(表現の技能)

段階	学 習 活 動	○指導上の留意点◎研究にかかわる手だて◇評価	教具・資料
導 入	1 前時を想起する。		
	2 本時の学習課題を確認する。 「2003太田祭りばやし」を味わおう。		
展 開	3 演奏を視聴する上での観点を確認する。	◎ビデオを見ながら、それぞれのグループの表現の高まりを感じ合うことを伝える。	・学習シート
	4 「2003太田祭りばやし」を鑑賞し、学習シートに感じたことを記入する。	○視聴しながらの前時との曲の感じの違い(構造的側面を分析)を感じ取ったり、演奏の構想を見直したりしながら気付いたことや感じたことを学習シートにまとめる。 ◇学習シートの記述により評価 A: 他のグループの高まりを構造的側面について分析し、具体的に記述 B: 前時の表現との違いを雰囲気的な面で記述	
終 末	5 「日本の音楽の特徴を感じて」の学習を振り返る。	◎表現を工夫したり、自分で音や音楽をつくることの楽しさ、成就感を味わう。 ◎活動を振り返りながら、自己の表現力の高まりに気付かせる。	
	6 本題材の活動を振り返り感想を学習シートに記入する。	◎学習シートに記入したことを基に学んだことや分かったことを紹介する。	

